

1. 評価報告概要表

作成日 平成21年 11月 16日

【評価実施概要】

事業所番号	1071000317
法人名	有限会社ケア・オオカワラ
事業所名	グループホームオリーブ
所在地	富岡市南後箇71-1 (電話) 0274-70-2180

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成21年10月28日

【情報提供票より】(平成21年9月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤	5人, 非常勤 6人, 常勤換算 7.275人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱200円/日 エアコン代200円/日	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
1日1,200円				

(4) 利用者の概要(9月20日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名
要介護1	2名	要介護2	3名		
要介護3	2名	要介護4	1名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 81.6歳	最低	69歳	最高	91歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	公立富岡総合病院、公立七日市病院、西毛病院、下仁田厚生病院 おのざわ歯科医院、大竹外科胃腸科
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設者がこの土地を見学を訪れた際、恵まれた自然環境とともに地域の方々の親切と人柄にひかれたという経緯がある。入居者は毎日近隣の方と挨拶を交わしたり、時には花や野菜を頂くこともある。ホームも広い芝生の庭を開放してお祭りをしたり、ティータイムに立ち寄りいただいたり地域住民との交流を大切にしている。地域住民、職員心をあわせ入居者のその人らしさを大切に生活を支援している。開設者は管理栄養士でもあり、日々の栄養バランスを考えた献立により食事を楽しんでもらっている。また、ホームは1年中玄関に鍵をかけたことがなく鍵をかけないケアを実践している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>理念の見直しを行い、地域との交流を掲げる。職員の研修については、限られた職員のみでなく新人や経験年数に応じて受けることとする。介護計画は、利用者、家族、介護職員だけでなく、前任者のケアマネージャー等からも情報を得ることとする等の改善に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価及び外部評価を実施する際には、職員会議で話し合い意見を聞いて実施している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に1回実施している。メンバーは市職員、民生委員、入居者、家族、職員等で、内容は入居者のサービスの実施や取り組み状況の報告、話し合いであり、そこでの委員の意見を取り入れたサービスの向上に活かしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>相談や苦情については契約時に文書で明示し、説明している。入居者・家族は希望や意見、相談等を日常的に職員に話し、それに対し全職員で検討し対応、改善している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の敬老会に参加したり、職員も町内の新年会や道路清掃に参加している。日常、散歩時に地域の方と挨拶を交わしたり、お花や野菜をいただいたりしている。また、ホーム主催の夏まつりにも多数の地域の方の参加があった。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム開設時の理念に、実践している地域の人との交流を文言として加筆明示し、地域密着型サービスの理念として、管理者と職員でつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、ホーム内に掲示している。全職員で理念をよく読みこみ、会議等で都度話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の敬老会や道路清掃に参加したり、新年会に必ず顔を出している。また、ホーム主催の夏まつりには、多数の地域の方の参加がある。地域では、ホームの為に街路灯を立てている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価を実施する際には、職員会議で話し合い意見を聞いて実施している。評価結果は全員目を通し共有しているが、運営者、管理者、職員と改善についての話し合いや検討はされていない。	○	運営者、管理者、職員は、評価を活かして改善課題について会議で取り上げる等して全員で検討し、改善計画シート等の作成により、具体的な改善に取り組んでいただきたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回実施しており、そこでの意見から地域の民生委員のホーム見学開催につながる等サービス向上に活かしている。メンバーは、市職員、民生委員、利用者と家族、職員等で、家族は交代で必ず出席している。その他、ヒヤリハット、ホームでの取り組み、入居者のホームでの過ごし方等を報告している。会議録は、出席しない他の利用者や家族に報告していない。	○	運営推進会議の会議内容を広く知っていただくよう参加できない家族にも周知し、さらに意見等がいただけるような取り組みに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	市開催の地域ケア会議に参加し、各事業所が持ちまわりでテーマを決めて事例検討、発表等を行い、市担当者と意見交換をしている。また、疑問点等は随時相談に応じてもらっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	入居者の日常の様子は、家族の面会時に口頭で伝え、面会が少ない時には随時電話で報告している。また、請求時に、ホームからの報告を同封し送付している。金銭管理は立て替えて、月1回家族にレシートを添付して精算している。自分で管理している入居者もいる。		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	相談や苦情については、契約時に文書で行政と国保連等を明示し説明している。入居者・家族は、希望や意見、相談等を日常的に職員に話し、ホームでは全職員で話し合い対応している。		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	離職を防ぐために、給与や休暇等の待遇面を改善したり、職員に対するレクリエーションや懇親会を計るなどの努力をしている。離職時は、お別れの食事会を開催し、入居者に説明している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	年1回外部講師を招いてのホーム内研修と経験年数に応じた県主催の各種研修会の参加を計画をたてて実施している。また、交換研修として、他のホームへ行き、研修をおこなっている。		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	地域密着型サービス連絡協議会や地域ケア会議に出席し、同業者と法改正の問題点、事例検討等の勉強会、意見交換を行っている。また、交換研修として職員同士互いのグループホーム見学を通じてサービスの質を向上させる取り組みをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の場合には、ホームに来ていただいたり、自宅を訪問したり、入院中の場合には病院に向いたりして、本人・家族と面会している。また、ホームも見学してもらい、必要に応じてお試し入居をしてもらっている。入居後は、家族の面会を多くしてもらい家族と相談しながら徐々に馴染める工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、入居者から戦時中の生活、難しい漢字の読み書き、法事等のしきたり、作物の栽培方法等、学ぶ事が多いと感じている。テーブル拭きや庭掃除等も手伝ってもらったり、テレビや新聞の内容を話し合うなど、ともに過ごし支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを大事にし、今までの生活のこと、本人のできることでできないことの範囲について、本人や家族から詳細に聞き取り、職員全員で把握するよう話し合いを持っている。何をすることも強制はしない等一人ひとりの思いを大切に支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の入居者の介護記録や個人日誌を参考にし、それぞれの入居者の担当者、家族、本人からの希望もきき職員会議で話し合い、必要時は入居前の担当ケアマネージャーからも情報をもらい総合的にニーズを引き出し、プランを作成している。作成したプランは、家族に郵送し直接希望を記入してもらっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、3ヶ月のモニタリング毎に定期的に見直しを行っている。入退院時や介護度の変更や状態の変化が生じた場合には、職員会議で意見を出し合い現状に即した新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人家族の状況、その時々要望に応じて、日常生活用品の買い物や入院中の入居者の衣類の洗濯を引き受ける等、柔軟な支援をしている。デイサービス実施については家族や地域住民の希望もあり、市に申請しているが許可が下りていない。入居者の希望にあわせて美容院によるパーマ染め、理容室によるカットを行っている。通院支援も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望するかかりつけ医を聞き、受診できるように支援する。病状により、インフルエンザの予防接種、かかりつけ医以外の専門医の受診、緊急時の受け入れ医等希望にそうよう家族と連携をとっている。必要に応じて受診支援をし、その報告も家族にしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のあり方について、マニュアル等必要書類は準備できており、職員間で話し合い全員で方針を共有している。対象者はいないが、具体的に体制を整えて入居者家族と話し合い準備をすすめている。家族、かかりつけ医の関わりや協力が得られれば、看取りまでできることを家族には説明し理解を求めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は入居者を「さん」つけて呼び、お客さまであるという意識を忘れないよう心がけている。トイレの見守りや確認は、他の入居者からわからないように工夫している。記録等は入居者や来客者からわからないようにし、事務所に保管し夜間は鍵をかけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れにそって、本人の意思の確認をするために声をかけるが強制はしない。食事やおやつ等食べる時間も自由であり、入居者の希望を汲み取り各自のペースに合わせて支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べるのに時間がかかる入居者には早めに食事を提供したり、夜食におにぎりを食べる等一人ひとりの好みやペースに合わせて支援している。また、入居者と職員は3食共一緒に食事をしている。一緒に食事をとりながら味つけの具合や入居者の食事の状況を観察している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、火曜と金曜で時間帯も決まっている。決まった時間内で、入浴の順番等入居者一人ひとりの希望に合わせるようにしている。失禁時等必要に応じてシャワーを使用している。	○	決められた曜日以外にも入浴したり、自由にシャワーを使う等、入居者の希望やタイミングに対応できるような工夫を期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者一人ひとりの力にあわせ、水まきや草むしり等役割を持ってもらっている。来客や家族の面会を楽しみにしている入居者のために、家族に電話等で来訪をお願いすることもある。ときには、入居者の実家へ連れて行ったり、家族と食事に行ったりしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者一人ひとりの希望にそって、毎日散歩したり、庭で日光浴やボール遊びをしたり、ティータイムを過ごすこともある。買い物や自宅訪問には職員が同行している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や玄関は、日中施錠していない。職員一人ひとりが、入居者の誰がどこに居るか常に把握しておくようにする事により、鍵をかけないケアに取り組んでいる。また、普段からの近隣との交流のおかげで、近隣の方からホームに知らせてくれたこともある。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練を昼間と夜間を想定し、2回実施している。地域に声をかけ近隣の人達にも参加してもらい、消防署からの評価反省の指導を受けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスや食べる量は、管理栄養士の6日ごとに立てる献立により確保できている。一人ひとりの食事や水分の摂取量はチェックされ、希望に応じ調理法等を工夫している。入居者それぞれのきらいなものに対しては、違うものを提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内温度は、1年中快適な温度に保たれている。居間や食堂は吹き抜けで天窓があり、明るく開放的である。ホームにはソファや冬にはこたつが設置され、生活感や季節感が感じられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には入居者や家族の希望により、愛用のタンスや絵画、仏壇が持ち込まれ、使い慣れたものや好みのものに囲まれ、入居者が居心地よく過ごせるよう配慮している。		